ケーススタディ

molex

infor

モレックスとインフォア ネクサスは、マルチ エンタープライズ サプライチェーン オーケストレーションにより、複雑さを能力へと変貌させます。

次世代プラットフォームで、グローバルな
ロジスティクス混乱への対応力と
適応力を高める。

なぜこれが重要なのでしょうか

- インフォア ネクサス コントロール センターは、情報検索や分析に要する時間を短縮し、問題解決やオプション、コミュニケーションにより集中できるようにします。
- フル機能を備えた、高度に統合されたサプライチェーンコントロールセンターは、重要なモレックス機能に継続的に供給チェーンの可視性を提供し、顧客注文の履行プロセスに合わせ、最終的にモレックスの顧客に利益をもたらします。
- 販売注文、納品書、出荷、購入・在庫輸送注文、商品受領書、ライブ航空・海上機能などのシステム取引と出荷情報の統合は、真のエンドツーエンドの可視性を提供します。

ケーススタディ

「このダイナミックなコラボレーションは、ゲームチェンジャーとなることが判明しました。モレックスがインフォアのソリューションを導入したとき、SAPがすでに示していた内容をさらに充実させることができました。現在では、商品やコンテナがどこにあるのか、また特定の品目への影響も教えてくれます。ユーザーは、コントロールセンターを通じて、モレックスのサプライチェーンのエンドツーエンドの概要を即座に確認することができ、状況を危機的状況に陥らせないための実用的な新しいツールをユーザーに提供することができます。」

モレックスのグローバル ロジスティクス運用計画＆システム担当ディレクター、ジェラルド・ファン・デン・アインデン氏

サプライチェーンに関しては、グローバルで、複雑かつ相互接続された世界です。デジタルだけでなく、顧客の注文をソースから配送までどのように満たすかという点でもそうです。多くのグローバル企業にとって、ファーストマイルとラストマイルの輸送は通常トラックで行われますが、トラックに乗る前は、海上、航空、鉄道で大陸を越えて輸送されてきたのが一般的です。これらの貨物は、直接お客様にお届けすることもできますし、お客様やチャネルパートナーに最適なサービスを提供するために、在庫の前置きや統合ハブとして機能する複数の地域配送センター（DC）を経由して移動することもできます。

モレックスは、この複雑なサプライチェーン全体で、輸送中のエンドツーエンドの可視性を向上させることが重要であると認識し、広範囲に及ぶ混乱にもかかわらず、顧客へのサービス向上を目指してサプライチェーン管理要件の解決策を探しました。このような包括的なシステムの必要性は、2010年にアイスランドでEyjafjallajökull火山が噴火し、西ヨーロッパ全域の航空輸送に大きな混乱が生じたときに劇的に示されました。モレックスのグローバルロジスティクス運用計画＆システム担当ディレクター、ジェラルド・ファン・デン・アインデン氏は、「ヨーロッパへの航空貨物は不可能でした」と語ります。「多くのグローバル企業と同様、モレックスもサプライチェーンの健全性を監視するために、一流の企業資源計画（ERP）ソリューションを使っています。しかし、ERPはそのために設計されていないため、ユーザーに真のエンドツーエンドの可視性を提供することはできません。完全な予測見通しがないと、この非常に高速な環境の要求に応えるのは難しいです。

この火山は、このような自然災害やその他の物質的な混乱に対する備えが、特に真のグローバル企業にとって、サプライチェーン業務の成功に不可欠であることを示す重要な例となっています。そして、モレックスにとって、これはより良いパフォーマンスへの旅の始まりとなりました。

インフォア ネクサスがゲームを変える

マルチ エンタープライズ サプライチェーンオーケストレーションと最適化ソフトウェアにおける信頼できるグローバルリーダーであるインフォア ネクサスと提携し、注文処理アプリケーションと高度なネットワークベースのサプライチェーンリスク分析を組み合わせたマルチエンタープライズ サプライチェーン ネットワーク プラットフォームでこの課題に答えました。モレックスとインフォア ネクサス（旧GTネクサス）は、多くのソリューションがまだオンプレミスのレガシーシステムに根ざしていた2012年に、このクラウドベースのプラットフォームを初めて導入しました。その結果、取引先のコミュニティをサポートする多対多のアーキテクチャが実現しました。

インフォア ネクサスのGo To Marketマネージャーであるケン・ロイス氏は、「私たちはここに真の機会を見出しました」と説明します。「モレックスは、非常に洗練された高度に分散されたネットワークを持っています。モレックスは、非常に洗練された高度な分散型ネットワークを持っています。私たちは、コントロールセンターを使用して、このネットワーク上の製品、材料、注文、需要のインプロセスフローを明確に把握することができると考えました。この情報を分析エンジンに送り込み、予測的・予見的な洞察を提供することで、モレックスは顧客のために納期厳守と信頼性の高いサプライチェーンの確保を支援することができます。」

インフォア コントロールセンター

インフォアのプラットフォームの頭脳となるのは、関連するすべての情報を1つの画面で確認でき、必要に応じてさらに深く掘り下げることができるインフォア コントロールセンターです。「輸入計画担当者、工場計画担当者、顧客サービス担当者など、購入・再販プロセスに関連するあらゆる職務に携わる人は、特定の原材料の輸送状況の詳細情報を得るために、常に複数の画面で作業し、複数のレポートに頼っているはずです」と、ロイスは言います。「インフォア コントロールセンターは、これらの情報を1つの統合ビューにまとめて表示します。また、特定の状況や問題を早い段階でシステムで強調することができます。出荷の遅れ、在庫不足、顧客への影響、そして可能であれば解決の可能性などです。」

コントロールセンターは、サプライチェーンのハブと製造工場との間で、よりタイムリーな在庫共有を可能にし、生産能力制約時の工場へのストレスを軽減します。このシステムは、モレックスのサプライチェーンに混乱を引き起こしているラインに焦点を当てる機能を提供します。

molex

これは、SAP ERP Central Component（ECC）からインフォア　プラットフォームへのデータの統合によって実現されています。販売注文、購入注文、納品、出荷、また在庫輸送注文（STO）、生産注文、在庫などのデータは、一定期間ごとにインフォアに送信されます。これらは、輸送会社やモレックスのグローバルな貨物サービスパートナーからもたらされるマイルストーン情報と組み合わされ、最も包括的でリアルタイムの画像を作成します。

さらに、輸送中の貨物を表示するだけでなく、「処理中」の貨物を広範囲に表示する機能も開発され、エンドツーエンドでリアルタイムの可視性に近い表示を実現し、すべてを1つのソースから得ることができます。この広範なデータレベルにより、コントロールセンターは顧客中心の意思決定を独自に推進し、世界中のあらゆる活用チャネルでロジスティクスと貨物を最適化することができます。

適応性のある行動

この例では、システムの仕組みをより明確に理解することができます。例えば、自動車の重要な顧客に悪影響を及ぼす可能性のある製品の在庫切れが確認されると、インフォア　コントロールセンターからプロアクティブなアラートが送信されます。モレックスのボリングブルック流通センターの輸入計画担当者は、このアラートを見て、顧客サービス担当者と相談し、予定されている海上輸送が到着するまでに顧客が必要とするユニットの数を決定します。グローバルに利用可能な在庫と生産スケジュールを比較した後、プランナーは行動を起こし、別の場所からの部分的な速達出荷を予定して、顧客のニーズを中断せずにカバーすることができます。

ジェラルド・ファン・デン・アインデン氏は、これまでの方法と比較して、この変化がいかに大きいかを強調しました。「以前は、フォワーダーに電話をかけ、Excel スプレッドシートを送ってもらうのが普通でした。「あるいは、輸送会社のポータルにアクセスしてログインし、小包の入荷数を確認する必要があるかもしれません。ERPにはインバウンド事前出荷の通知が表示されますが、それは非常に基本的なもので、貨物の日付と数量だけが記載されていました。しかし、データは更新されませんでした。

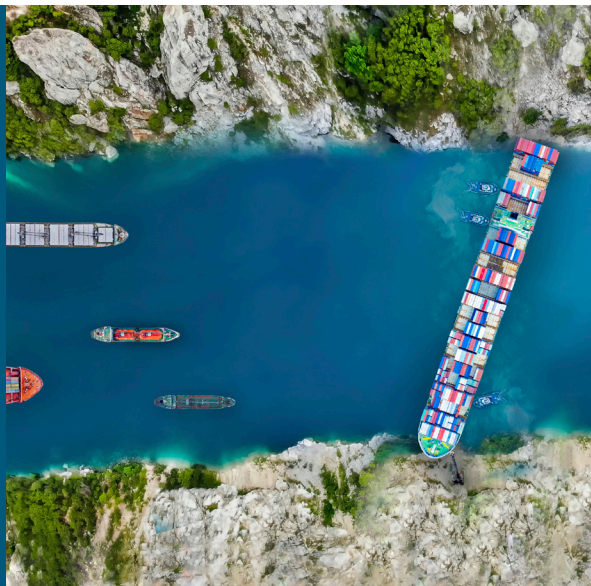
それに比べ、インフォア　ネクサスは、モレックスが実用的なインサイトに基づいた意思決定を行うことを可能にします（例えば、出荷遅延の予測から）。貨物は、必要に応じて鉄道や海上から航空に移動し、定時配送と顧客満足を確保することができました。ETAの変更の正確さと頻繁なレポートが、これを可能にします。貨物が遅れていることをいち早く知ることで、代替のルーティングオプションや解決策を見つける時間を増やすことができ、ひいては解決にかかるコストを下げることができるのです。

より良いデータ

インフォア　ネクサス　ツールのもう一つの利点は、プラットフォームを通じてマスターデータを高い精度で成熟させることができる組織であることです。モレックスは、輸送中の可視化に必要な基本的なデータ要素を使用して、主要業績評価指標（KPI）を追跡し、業績を把握できるようになりました。また、ほとんどのデータを保存するために1つのグローバルなERPインスタンスを使用することで、データの品質もさらに向上しています。同規模の他の企業では、同様のデータを格納するために10以上のERPインスタンスを保持している場合があります。

インフォア　ネクサスのデータは、モレックスの輸送チームが輸送会社のソーシングを強化するのにも役立っています。フォワーダーや輸送会社をレーンごとに調査し、パフォーマンスの傾向を把握することができます。モレックスは、より多くのロジスティクス　パートナーと連携することで、調達チームが使用するアナリティクスを強化しています。

ジェラルド・ファン・デン・アインデン氏は、パンデミック後の時代に生まれた「破滅」のシナリオを回避するために、インフォア ネクサス プラットフォームの強さを目の当たりにしたこともあります。「パンデミックが進むにつれてインフォア　ネクサスの活用が重要になったのは、ロジスティクス領域の混雑が激化したことに加え、原材料市場の不足があったからです」と、彼は共有しました。「スエズ運河の封鎖は、その典型例です。インフォア　ネクサスでは、影響度分析に15〜20分かかり、どの製品が影響を受けるのでしょうか? どのコンテナ、どの数量に影響があるのでしょうか? どの顧客が危険にさらされているのでしょうか? インフォアのソリューションでは、品番や数量をリストアップして、代替案や取るべき行動を定義するのが比較的簡単です。」



グローバルERPの強化

また、インフォア ネクサス コントロール センターをSalesforceに統合することで、よりシームレスなデータと情報の流れが実現し、当初はエクスペディットケースに焦点を当てます。Salesforceのケース管理システムはインフォア ネクサス コントロール センターと連携し、工場やDCのカスタマーサービスや運用計画チームのメンバーが、モレックスの顧客と社内ユーザーの両方からのエクスペディットやその他のリクエストに、より効率的に対処できるようになります。

SAPとの統合は、ライブエアおよび海上機能により、モレックスのグローバル サプライチェーンの状況を強力に把握することができます。これらのモジュールには、以下の内容が含まれます。

ネットワーク在庫管理

在庫および供給/生産注文は、インフォアがネットワーク在庫管理（NIM）モジュールと呼んでいるものの一部です。在庫データと供給情報は、SAP ECCから直接ではなく、モレックスのデータレイクから提供されます。データレイクは、15分ごとにSAPから供給されます。

NIMモジュールは、分割、ビジネスユニット、プランナー、計画戦略、および/またはサービスレベル別に、個々の部品番号の在庫データを時間の経過に沿って視覚的に表します。将来の在庫予測を強調し、潜在的な在庫切れの状況が発生する場所とその可能性について注記することができます。

ライブエア / ライブオーシャン

このインフォアの機能により、航空・海上貨物輸送のライブトラッキングが可能になります。航空貨物フォワーダーの大半は、MAWB（Master Airway Bill Number）に基づくマイルストーン情報をインフォアのプラットフォームで受信しています。マイルストーン情報の詳細には、出発便、到着便、空港の利用状況などが含まれます。海上輸送の場合は、船舶の位置と通過の進捗を追跡するためにAIS（自動識別システム）が使用されます。

先を見据えて

「火山の影響に対応しながら、世界的な大流行やヨーロッパの戦争にも耐えうるものを作り上げたのです」と、ジェラルド・ファン・デン・アインデン氏は締めくくります。「しかし、このレジリエンス（回復力）は、単に忍耐強い意志から生まれるものではありません。現在も将来も、ロジスティクスの危機に適応できるツールを開発するための、綿密な計画と戦略的なパートナーシップから生まれるのです。」

インフォアについて

インフォアは、産業別市場の企業向けビジネスクラウド ソフトウェア製品におけるグローバルリーダーです。インフォアは、完全な業界スイートをクラウドで構築し、ユーザー体験を第一に考え、データサイエンスを活用し、既存システムに容易に統合できるテクノロジーを効率的に展開しています。

世界中の60,000以上の組織がインフォアのサービスを利用し、市場の破壊を克服し、ビジネス全体のデジタルトランスフォーメーションを実現するための支援を行っています。詳細については、www.infor.comをご覧ください。

モレックスについて

モレックスは、未来を変え、生活を向上させるテクノロジーを実現することで、つながる世界を実現します。40か国以上で事業を展開するモレックスは、データ通信、医療、産業、自動車、家電などの市場向けに、あらゆる種類の接続製品、サービス、ソリューションを提供しています。詳細については、www.molex.comをご覧ください。

www.molex.com

モレックスは、米国におけるMolex, LLCの登録商標であり、その他の国でも登録されている場合があります。ここに記載されているその他の商標はすべて、それぞれの所有者に帰属します。

注文番号 987652-5931 SGP/0k/SF/2021.01 ©2023 Molex

molex